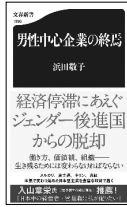


動き出した主張



三浦 まり 著



浜田 敬子 著



野村 浩子 著



安藤 優子 著

永井 暁子

司会：『市川房枝、そこから続く「長い列」—参政権からジェンダー平等まで』は学生にとってもわかりやすいですね。

X氏：市川房枝は、大正8年（1919年）に平塚らいてうなどと新婦人協会を創立し、女性の政治参加への道を開いた人物だということは、学生は知っているとは思いますが、時間軸で市川房枝の生涯にわたる活動を記述し、令和に生きる人にも良く知られている赤松良子、樋口恵子、堂本暁子、辻元清美、林陽子へのインタビューから肉付けしている点が面白いですね。

Z氏：筆者が強調しているように、市川房枝は①社会課題を「データ」で語る、②国際社会の「外圧」をうまく使って国内の仕組みを変えていく、③女性たちが立場を超えて「連携」して「個の力」を束ねて波をつくる、④女性の力を「実践」をもって示していく、⑤後戻りしそうになる「逆コース」を厳しくウォッチするという戦略をとっていた。これは正攻法では突破できないという意味では、「残念ながら」ともいえるかもしれませんが、現在もこのような方法が切実な戦略として用いられています。そして、市川房枝からキャリア形成のヒントをつかむことが本書の目的となっていますね。

司会：キャリア形成のヒントという点では、現実にはなかなか難しい点もありますね。とくに政治への女性の参加の難しさはずっと続いてきたのではないのでしょうか。その難しさについて分析しているのが、『自民党の女性認識』です。

司会：政治は変わるのか、政治家へのキャリアパスについてタイプ別に描かれていますね。

P氏：『市川房枝、そこから続く「長い列』』と『自民党の女性認識』を一緒に読んでみたら面白いんじゃないかと思いました。というのは、先日、日本経済新聞で三浦まり氏の『さらば、男性政治』の書評があったので読んでみたのですが、なぜ女性の政治家が少ないかということ、やっぱり男性社会の問題点が指摘されているんですね。女性の発言とか女性の参加を妨げるような組織の構造について。彼女が制度を変えるだけじゃダメなんだ、その背後にある意識構造が制度の妨げとなっていると主張している。女性嫌いや女性の意見を真剣に聞かないとか、女性が発言しにくい雰囲気をつくっている日本の社会の根源的な問題に踏み込まなきゃダメなんだと。共感できる部分がたくさんあるんです。

Q氏：日本の社会が流動性を失っているというかな、90年代以降ですね。私の実感で。

これらの本の共通点は、女性が抱えている問題であると思いますけれども、彼女たちがぶつかっている問題というのは、若い人たちが活躍できない社会の問題点であるというふうに私は思います。

司会：企業に対しても同じようなことが言えますね。

Y氏：イエ中心主義は安藤氏の造語ということですが、男性中心主義、男性社会とかなり近い言葉と取っていいでしょうね。それでいうと、企業についても当然同じことが言われているわけで、浜田敬子氏の『男性中心企業の終焉』は、企業におけるシステムの変化について述べています。本気で変える気がない、アンコンシャスバイアスへの無関心は無意識の偏見なのか、無知のバイアスなのかと。女性や若者たちの発言が会社を活発化させるという視点の不足について指摘されています、それにはたとえば時間の管理権をひろく与えるなど、これまでとは違ったことが必要です。多くの「変わらない人」にあるのは恐怖心とあるように、恐怖心のある人はこの本を読まないのではないのでしょうか。そうするとますます変わりようがないですね。

X氏：基本的な人権問題ですら、未だ外圧（国際記者クラブ）に訴えなければならないのが日本の実情です。一方、SNSを使いこなすZ世代（1990年半ば～2010年代に生まれた世代：現時点で30歳未満の若者）は、これまでの若者に比べると社会問題への関心は高い。ここにきてやっと主張が目に見える形で動き出してきました。

司会：今回ご紹介した書籍の筆者たちは、「男社会」を乗り切ってきた方々です。それにつづく諸先輩が切り開いた道「長い列」をつなぐ一助になればと言うのは野村氏の言葉ですが、今後の長い列、その列は異なった形のものだと思います。今後も注視していきたいですね。

（了）

注

本稿は編集委員会での雑談をもとに永井が創作した架空の編集委員議事録です。内容に関する全ての責任は永井個人にあります。紙面の都合上、それぞれの書籍を部分的に切り取った部分もございますので、ぜひそれぞれの書籍をお読みいただければと思います。

本稿でご紹介した書籍

安藤 優子『自民党の女性認識』（明石書店、2022年6月、308頁）

野村 浩子『市川房枝、そこから続く「長い列」—参政権からジェンダー平等まで』（亜紀書房、2023年4月、328頁）

浜田 敬子『男性中心企業の終焉』（文芸新書、2022年10月、280頁）

三浦 まり『さらば、男性政治』（岩波新書、2023年1月、298頁）

（ながい あきこ 人間社会学部教授・現代女性キャリア研究所所長）